



# 聖隷学園浜松衛生短期大学創立三十年を迎えて

聖隷学園浜松衛生短期大学 学長 永井 敏枝

## 聖隷の精神脈々として

その源を一九四九年各種学校遠州基督教園に発し、以後時代の要請にさきがけて、保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成へと教育事業に目を注がれた、創設者長谷川保先生がおられました。その理念であったキリスト教による生命の尊厳と隣人愛を建学の精神として、看護教育が開始され、一九六九年本学の衛生短期大学が設立されました。当初は二年課程の教育として発足し、次いで三年課程を併設し、一九八〇年には専攻科助産学特別専攻が併設され現在に至っています。その間二年課程を廃止し、看護学科一本となり、本格的な高等教育による専門職としての看護職者の育成にあたっています。即ち、キリスト教精神を基盤としての人格の向上、科学的な看護をめざしての学際的な知識、理論に基づいた技術と調和のとれた教育の実践を行うよう、全学をあげて取り組んでいます。そのためカリキュラムの見直しをし、教養分野と専門分野に大別、専門分野を専門基礎と看護専門とし、看護学が高度な広い領域の学問によって支えられるように構築しました。なお看護学が実践の科学と

して確立するためには実習は欠かせない領域であり、別枠にしないでそれぞれの看護学の学科と一連のものとして学習するようにしました。ただ在宅看護では、対象者が全領域の発達段階にある方たちであると考えられるので、理論は各看護学に包含し、実習を別に行いました。教養分野では、殆どの科目を選択制にし、社会人入學、大学・短大卒の入學者のことも考え、それぞれ学生のニーズに応えられるようになっていきます。一方、教員側としては、本来の教育・研究に少しでも専念できるようにと、組織体系を見直し、委員会を統廃合し、効率的な運営を考えました。さらに本来の使命である教育効果をあげる努力として、学生からの評価を全教科に亘って実施し、自己評価の資料とする試みも実施しました。また将来のある講師・助手職にある方たちに別の会を設け、特に実習指導という難題に向かつて、意見交換、勉強会を実施して努力しています。

三〇年といつ一つの区切りにあたって時代の変化に常に対応でき、また国際的な活動をもできる卒業生が育つように様々な努力をしている短大です。

発行所 / 学校法人 聖隷学園  
浜松市三方原町3453  
電話 / 053 436 5311  
〒433-8558  
発行責任者 / 長谷川 了

### 聖句

「人間の心は自分の道を計画する。主が一步一步を備えて下さる。」

(箴言一六・九)

## 大学院開設にあたって

聖隷クリストファー看護大学 学長 吉田 時子

### 聖隷クリストファー看護大学は

一九九二年に開設されて七年目を迎え、この三月には第三回生を社会に送り出しました。大学設置当時の念願であった大学院を本年四月に開設することができました。これは、故長谷川保学園長のご遺志の実現でありますから、昨年十二月十九日に文部省において正式な認可書の交付を長谷川理事長が受け取られた時には、このことが実現したことを在任の長谷川保先生に感謝し、今後のお守りを願う中で祈りを捧げたことでした。

### 大学院設置の構想にあたっては、

背景に総合的な保健・医療・福祉ゾーンをもつ本学の特徴を活かした専攻分野の設定について検討を重ね、看護教育学、地域看護学および成人看護学の三分野を開設しました。いずれの分野も、本学が学部において行っている看護基礎教育をさらに専門化し発展させ、高度の専門的能力をもつ看護職者や看護教員を育成することを目的としております。

看護教育学分野は看護教育機関の教員養成にもちろんのこと、医療機関等における看護職の卒後、継続教育の指導者育成を目指します。医療・看護環境の変化や医療技術の発展により家庭における看護の必要性が高まっていることから、これからの医療・看護は地域における看護を中心として、医療施設や福祉施設との連携によって成り立つこととなります。地域における家族ケア、保健・医療・福祉の連携を実践を含めて体系的に修得することを目的とする地域看護学分野は本大学院を最も特徴づける専門分野であるといえます。

成人看護学分野は成人期にある人々のセルフケアや看護援助のあり方を研究し、高齢社会に向けた慢性的な健康問題への対応を目的としており、これも社会の要請に応える分野であります。

開設初年度は七名の学生が入学しスタートいたしました。本学が大学院の開設により基礎となる看護学部もあわせて、より質の高い教育を提供し、聖隷において、地域において、また日本の看護教育会においてその役割を果たしていくべく決意を新たにしているところです。

## 聖書のことば

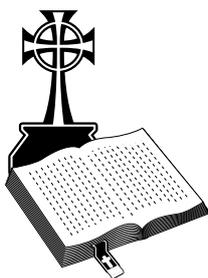
聖隷学園浜松衛生短期大学 助教授 船窪 健

人の心の中には、さまざまな願いがあつて、願いを實現するために準備を重ね、計画をたて、実行に移します。しかし、事が成るか成らぬかは、主の御心次第なのです。真の主導権は神にあつて、私たちの側にあるのではないのです。

右上の聖句は、私たち人間の願いや計画に「待った」をかける言葉ではありませんが、何でも自分たちの思い通りになって当たり前と考える、人間の思い上がりに対する戒めであり、また、主の導きに信頼して大胆に進めという促しの言葉でもあります。

私たちは、神の敷いた線路の上を走っている電車のようなものではありませんから、自由であり、またそれ故によるめきがちです。そんな私たちの、この一歩と次の一歩との間にある神の導きを、生の深みにおいて発見し、心からのアーメンをもって確認するとき、確信をもって踏み出すことができます。

短大創立三〇年、大学院開設とその後の諸計画を、神の御業として、ますます謙遜に、また大胆に進めたいものです。



# 将来キャンパス

## 学園の将来計画について

学校法人聖隷学園理事長

長谷川 了

神様の豊かな恵みの内に聖隷学園の歩みを守り導かれ、聖隷学園浜松衛生短期大学が創立三一年目を迎え、聖隷クリストファー看護大学に大学院看護学研究科を設置するほどに発展することができました。神様の恵みと教職員、同窓生、後援会、その他聖隷学園に関わりを持たれた多くの皆様の支えによるものと深く感謝申し上げます。

学園を取り巻くここ数年の環境の変化には目を見張るものがあります。一九九二年度に看護系大学は全国で一四大学でしたが、今年四月に六二大学を数え、数年の内には八大学を超えと言われ、看護短期大学(三年課程)も現在七校あります。介護福祉専門学校も一年間で二九校を数えるまでになりました。

一五歳、一八歳人口は数年の内にピーク時の六割を切るころまで急減していきます。この影響は考えられている以上に早く、既に多くの学校に様々な形で現われています。厳しさは想像以上に深刻です。

急速な状況の変化に対応できる柔軟性はもちろんのこと、どのような変化にも妥協しない厳しさが私たちに求められます。聖隷学園創立の理念に立ち返って、日々の教育運営において自己点検評価を怠らず、変えるべきは積極的に変革し、変えてはならないものは守り抜いていかねばなりません。これからの十年は、真に存在価値を問われる重要な時期

となります。聖隷学園の将来像を明確に描き、計画実現に向けて、日々の現実に流されず変革に取り組みねばなりません。

一九九七年三月二十七日、聖隷学園理事会・評議員会は向こう一年間にわたる中長期経営計画を決定しました。その第一は、大学院看護学研究科を設置することでした。大学院の設置は創立者長谷川保が聖隷クリストファー看護大学の設置とあわせて吉田時子学長に託したまぼるしてもありました。大学院は、一九九七年一月九日に文部大臣の認可を得、この四月に開設し実現することができました。

次の目標は、大学に福祉系の学部

を増設することです。二一年に文部省に認可申請を行い、二二年四月の開設をめざします。福祉系学部増設後は、二六年をめどにできるだけ早い時期に高等学校を全面移転します。さらにその数年後短期大学校舎の改築、チャペル、総合図書館、学生会館の建築に着手するなどキャンパスを総合的に再開発していく計画です。

### 福祉系学部の増設

我が国では急速に進む人口の高齢化に対応するため、様々な制度改革が行われ、社会福祉、看護、介護に関わる人材の養成が急務とされています。高等教育機関の新増設が抑制されるなか、看護とともに福祉の分野は例外で、この数年福祉系の大学・短期大学の増設が急速に進められています。

これから福祉に関わっていくこととする人材の養成において最も重要な点は「人の幸せを願い、ニーズを発見し、行動を起こして、人の喜び、苦しみ、悲しみを分かち合い、ともに生きようとする視点を持つこと」だと考えます。このようなこころをもった実践者を養成していくことは大学創設の理念であった「病人・障害者やお年寄りの不安や苦痛、悲しみを理解し、クリストファーがキリストを背負ったように、これらの人々を大切に大事にケアする」ことにもつながります。

学部増設構想は今後さらに具体的にまとめていかねばなりません。聖書の人間理解・人間観を基本に人間と関わる視点と考え方を養うこと、「聖隷の歴史とフィールドを十分に生かした教育課程を編成すること」を念頭に進め、「聖隷らしさ」を打ち出したものにしたいと願っています。学部増設にあたっては校舎増築が必要となりますが、既設の校舎との共用を総合的に検討して計画をまとめます。校舎増築は大学西側空地を利用することが適当と考えています。学部増設に必要な経費は約六億五千万円と見込んでいます。

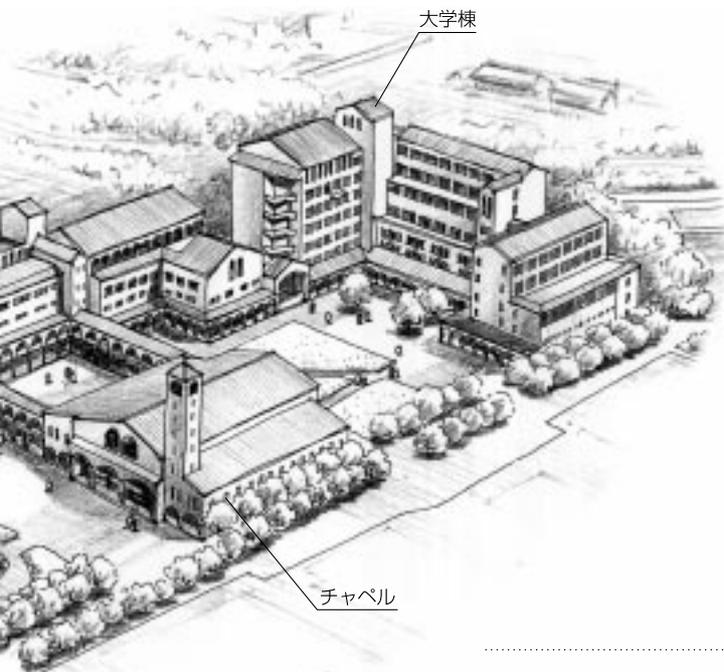
### 学部増設にあわせた校名変更

学部増設後は、設置する学部が看護学部と福祉系の学部の二学部になることから「看護大学」の名称の変更を考えの内に、今後検討を重ねていかねばなりません。また、これからの聖隷学園の看護・福祉の教育のありかたを「聖隷クリストファー」に象徴化し、厳しさを増す短期大学の経営環境に立ち向かっていくため短期大学を「大学短期大学部」に名称変更し、位置づけていく計画です。学校名称の変更は、大学にとっても、短期大学にとっても同窓生にも関わる大きな課題です。是非ご理解をお願いします。

### 高等学校移転

高等学校設置基準面積、現有校地面積を参考にして高等学校移転事業費を試算した結果、約二五億円になるものと見込んでいます。財務計画により高等学校移転は二六年度での実施が可能と考えています。

現在約四万五千人の県内の一五歳人口は、二五年には約三万九千人にまで減少していきます。その間現状に留まり改革しないとすれば、生き残れないことは確実です。高等学校の移転計画は、八年先とはいえず、厳しい現状分析と大胆な改革の延長線上にあるわけで、高等学校の将来像を描くために真剣に議論を重ねていかねばなりません。



# SEIREI CAMPUS

高等学校移転後の大学・短期大学キャンパスの再開発

高等学校移転後には、短期大学校舎改築、チャペル建設、総合図書館、学生会館等の建設に着手する計画です。短期大学校舎改築費には約一六億円を要するものと試算しています。計画の上では二一年度の年度での実施が可能と考えています。チャペル、総合図書館、学生会館等の建築計画はその後の数年以内に見通しをつけたいと願っています。

今や言い古された感のある一五歳人口・一八歳人口の急減、看護系大学の急増、対応策にこれで万全といえるものはないと思います。教育研究の高度化・個性化・活性化、国際化、情報化、生涯学習社会の進展、二一世紀に向けた人材養成という最近の教育改革のキーワードへの対応策、キリスト教教育のプログラムの充実など課題はあげていくときりがありません。ここに述べた将来の事

## 聖隷学園全学ネットワーク化計画着手へ

法人事務局長 堀口 路加

これからの情報化に対応することを目的に、今年度学園の事業計画に掲げた全学ネットワーク化によいよ着手します。大学・短期大学の全ての教員研究室、大学棟6階コンピュータ教室、大学・短期大学の全ての講義室をLANで結びます。急速に進むマルチメディアを利用した教育に対応するため幹線は1Gbps、支線は100Mbpsとしました。大学棟内のコンピュータ教室のパソコン61台はこれを機にすべて最新機種に更新し、今後は大学・短期大学が共同利用することになります。高等学校においても従来のコンピュータ教室を整備し直し、43台のパソコンも一新します。

既設の事務系ネットワークと今回新設のネットワークには教育系・事務管理系あわせて290台のパソコンが接続されます。そして岡崎国立共同研究機構と専用線で結び、インターネットに接続する計画です。

### <将来構想図>

業計画は二一世紀に向けて聖隷学園の使命を果たし続けるためにどうしても実現しなくてはならないことです。この機に各学校が五年後、一年後にどのような学校づくりを目指すのかを真剣に考え、私たち自身の存立の意義を確認し、将来の学園像に確信を持って進んでいきたいと考えています。



短期大学部棟

学生会館

総合図書館・法人事務局

## 聖隷学園に期待すること

社会福祉法人十字の園 理事長 森本 節夫(評議員)

学校法人聖隷学園は、聖書の「隣人愛」を基本的精神として掲げ、地域の或いは時代のニーズを先取りし聖隷クリストファー看護大学、同大学院の設置等により、常に前進されている事を隣地の法人として心強く感じ、具体的に毎年多くの卒業生を送って頂き感謝を申し上げる次第です。標題の学園に期待することは、この点で今後も多く優秀な卒業生を送って頂くことを希望いたします。第二点として、福祉学部の創設を期待いたします。介護保険の実施に伴い社会福祉施設も、措置的保護制度から、何時でも、誰でも、何処でも質の高い福祉サービスの提供が求められます。このように、より複雑多岐にわたる福祉ニーズの発見推進と科学的な理論に基づく施設経営と処遇展開が求められる中、「介護支援専門員(ケアマネージャー)」等隣人愛に裏打ちされた、質の高い人材の養成が急務のことと考えます。さて、反対に隣地の法人として、又、多くの学生の実習施設として法人(施設)はその期待に込んでいるか、この際、今までの実習受入れ体制を含め検討し、学園の実習施設に相応しい法人(施設)でありたいと願います。

## 高等学校移転にあたって

三方原土地開発株式会社 代表取締役 飯嶋 文男(評議員)

萩の群生地この地区から、長谷川保先生の理想を実現するために、聖隷学園高等学校が創立されて、早三年の歳月が流れました。卒業生も各界各方面で活躍されていて、同窓としてとても嬉しく思います。私は母校を応援する一人として、皆さんと共に将来の聖隷学園高等学校を見つめて行きたいと思っております。三三年という歳月の中で、多くの支援者の中から、「サッカーやバレーそして野球が強い学校を」という要望に応えるために、サッカー場やバレーのできる体育館、そして野球場と施設を充実させて、選手たちも一生懸命に頑張ってくれています。しかし教育の根幹となる校舎は、長年の風雪に黙々と耐えており、大変痛々しく思います。国際時代を迎えている今、やはりコンピュータ機器の導入や外国語教育などに対応するための教育施設と環境の充実、入学する生徒達に大きな要望となっております。私は将来構想を考える時、愛する母校の飛躍を念願し、生まれ変わることが大切だと思います。校舎の移転は大事業ですが、時代の要請と共に発展してきた聖隷学園高等学校は、さらに一歩踏み込んで、時代を切り開くリーダーとなるように祈念したいと思っております。

高等学校



## I N F O R M A T I O N

## 1997年度決算、1998年度予算について

単位千円

科目	消費収支計算書						消費収支予算書					
	自 1997年4月 1日 至 1998年3月31日		自 1998年4月 1日 至 1999年3月31日				自 1998年4月 1日 至 1999年3月31日		自 1998年4月 1日 至 1999年3月31日			
	法人	大学	短期大学	高等学校	専門学校	合計	法人	大学	短期大学	高等学校	専門学校	合計
学生生徒等納付金	0	719,599	449,807	312,519	159,015	1,640,940	0	744,070	446,870	314,556	163,200	1,668,696
手数料	270	22,931	14,630	11,141	3,285	52,257	0	22,300	17,100	12,100	3,200	54,700
寄付金	345	19,388	419	11,439	126	31,717	0	2,000	1,000	7,000	0	10,000
補助金	0	151,870	79,028	258,402	3,508	492,808	0	137,307	77,234	261,500	3,450	479,491
資産運用収入	795	7,049	6,204	4,270	1,740	20,058	0	4,832	3,020	3,382	846	12,080
事業収入	0	0	0	84	0	84	0	0	0	0	0	0
雑収入	267	6,202	10,341	2,879	1,108	20,797	0	4,846	11,320	24,966	1,244	42,376
帰属収入合計	1,677	927,039	560,429	600,734	168,782	2,258,661	0	915,355	556,544	623,504	171,940	2,267,343
基本金組入額	7,393	73,504	28,340	35,063	2,700	147,000	236	7,912	19,935	94,345	1,400	123,828
消費収入計	5,716	853,535	532,089	565,671	166,082	2,111,661	236	907,443	536,609	529,159	170,540	2,143,515
人件費	35,752	503,237	405,806	416,287	80,330	1,441,412	42,128	562,605	399,080	428,884	75,700	1,508,397
教育研究経費	119	219,331	85,925	84,006	19,337	408,718	0	246,504	91,887	82,824	20,031	441,246
管理経費	23,512	28,343	19,034	16,888	10,914	98,691	19,695	35,169	23,024	20,988	9,382	108,258
借入金等利息	0	0	11,614	14,967	0	26,581	0	0	11,164	12,791	0	23,955
資産処分差額	0	57	0	0	0	57	0	0	0	0	0	0
予備費	0	0	0	0	0	0	0	4,200	2,600	2,900	800	10,500
消費支出計	59,383	750,968	522,379	532,148	110,581	1,975,459	61,823	848,478	527,755	548,387	105,913	2,092,356
当年度消費収入超過額						136,202						51,159
前年度繰越消費支出超過額						1,166,659						1,030,457
翌年度繰越消費支出超過額						1,030,457						979,298

## (1) 1997年度 消費収支計算書

帰属収入は2,258,661千円となり消費支出1,975,459千円と基本金組入額147,000千円を賄うことができました。前年度繰越消費支出超過額は幾分解消されていますが、学生・生徒数の急減、将来計画を考えると課題が残されています。

1997年度は1998年4月大学院開設に備えて大学院自習室改修工事、器具・備品・学術雑誌の購入を行いました。さらに新法人事務局建築工事、以前から懸案事項だった健康管理センターを設置しました。福祉系学部増設のための資金積み立てとして50,000千円を第2号基本金に組み入れました。

## (2) 1998年度 消費収支予算書

1998年度大学院が開設し、帰属収入2,267,343千円、基本金組入額は将来の高等学校移転計画に備えた校地取得や各学校の施設設備充実のため123,828千円を予算計上し、2,143,515千円の消費収入額となる見込みです。

人件費は大学院開設に伴う専任教員数の増加と定期昇給及び人事院勧告による学園の給与改定で前年比4.3%増の1,508,397千円を予算計上しました。教育研究経費は全学ネットワーク化に係る経費を反映し、2,092,356千円の消費支出を予算計上しました。消費収入超過額は、51,159千円となる見込みです。

## 満足度調査の実施と報告

## 一、満足度調査について

満足度調査は、聖隷クリストファー看護大学、聖隷学園浜松衛生短期大学、聖隷介護福祉専門学校及び聖隷学園高等学校の卒業学年の全ての学生・生徒を調査対象とし、学生生活や学校生活に関する事柄について、学生・生徒の「満足度」という指標により点検・評価を行うことで、学生・生徒の考えを把握すると共に、それらを学校経営や学校運営に積極的に反映させていくことを目的としています。一九九四年度に最初の調査を実施し、一九九七年度で四回目の実施となりました。

調査項目は、「進路に関すること」、「授業に関すること」、「教員や事務職員に関すること」、「友人や後輩との交友関係に関すること」、「宗教教育に関すること」、「行事やクラブ活動・部活動に関すること」、「施設・設備に関すること」、「厚生施設に関すること」、「学校周辺の環境に関すること」、「その他下宿に関すること等」に区分し、設問数は六、問前後となっています。回答方法は、「大変満足している」、「やや満足している」、「どちらともいえない」、「あまり満足していない」、「全く満足していない」の五段階選択回答方式としました。部分的に記述による回答方式も取り入れていきます。

学以外）、学生ロッカー室や学生ホールなどの厚生施設（高校以外）に関しては満足度が低くなっています。大学・短期大学では、臨地・臨床看護実習の満足度が高い一方、語学教育や情報教育の満足度が低くなっています。その他には、大学では実習室の施設・設備に関して、短期大学ではアメリカ研修に関して満足度が高くなっています。専門学校では、全般的に高い満足度が得られていますが、グラウンドや体育館などの共有施設の利用に不便を感じているようです。高等学校では、校舎や体育館に関して特に満足度が低くなっています。校舎の新築・移転を望む意見が多く見られました。また、進路指導に関して満足度が比較的高く、文化祭や生活指導に関して満足度が低くなっています。自由記述では、教員や授業・講義に対して要望や批判的な意見も見られました。自己点検・評価を進める上で、貴重な意見として真摯に受け止めていきます。

二、調査結果の概要

全校に共通して、友人との交友関係や学園周辺に医療・福祉施設が多いことに高い満足度が得られています。学園周辺の環境は学生・生徒にとって大きな魅力になっているようです。逆に、校舎やグラウンドなどの施設・設備大

三、学校経営・学校運営への反映

満足度調査の結果を尊重し、緊急性と重要性を判断しながら、教育環境の改善に結びつけていきます。「進路」に関しては、大学では進路コーナーの拡張、短期大学では進路相談室を設置しました。「授業」に関しては、コンピュータ教室のコンピュータの更新と全学ネットワーク化計画を一九九八年度に実施する計画です。「施設・設備」に関しては、第一体育館の補修工事、施設共有の制度化第一体育館、

## 編集後記

第二〇号（一九八六年七月）発行以来二年の歳月を経て、二二号発行のはこびとなりました。当時の学園報の第一面には、「看護大学構想検討本格化」看護大学プロジェクト編成される」との記事が大きく掲載されていました。多くの折りと導きにより、一九九一年に大学構想は実現し、今年度は大学院看護学研究科を開設することができました。しかしこの間、具体的な構想や計画の進み具合について十分な情報発信ができていませんでした。学園報再開を契機に、積極的な情報発信を考えたいと思います。今号から、学園報に「聖隷学園理事長宛て」の封筒を添えることになりました。寄せられたご意見は真摯に受けとめ、改善のために生かしていきたいと考えています。年に一回、二回の学園報ですが、学園が新しいまほろしに向かって歩む姿を少しでも感じてもらいたく、編集に当たってまいります。（法人事務局長）